富山大学　学報

第232号

目　次

関係法令……2
学内規則……2
富山大学学生部長選考基準の制定……2
諸会議……3
学事……4
昭和58年度文部省内地研究員の決定……4
人事異動……4
学内諸報……4
工学部校舎の新営工事について……4
教育学部長の改選……5
理学部長の改選……6
工学部長の改選……6
トリチウム科学センター長の改選……6
文化講演会の開催……6
第25次南極地域観測隊員候補者の推薦……7
寄稿〈船尾甲板での回想〉……7
保健管理センターだより
〈心のトラブル(その３)〉……9
職員サークルの紹介〈山岳班，庭球班，釣班〉…10
職員消息……12
主要行事……12
資料……14
昭和58年度入学志願者数……14

関　係　法　令

告　示

	(官報掲載月日)
○大学の名称及び位置を変更する件(文部8)	2・2
○大学の名称を変更する件（文部９）	2・2
○大学、短期大学、大学の学部、短期大学の学科及び大学の学部の学科の設置を認可した件（文部10）	2・2
○短期大学の学科の廃止を認可した件（文部11）	2・2
○大学，短期大学の設置を認可した件（文部24）	2・16

学　内　規　則

富山大学学生部長選考基準の制定

富山大学学生部長選考基準を次のとおり制定する。

昭和58年２月18日　　富山大学長　柳　田　友　道

富山大学学生部長選考基準

第１条　学生部長候補者の選考は，この基準により学長が行う。

第２条　学生部長候補者の選考は，次の各号の一に該当する場合に行う。

(1)学生部長の任期が満了するとき。

(2)学生部長が辞任を申し出たとき。

(3)学生部長が欠員となったとき。

２　学生部長候補者の選考は，前項第１号に該当する場合は，任期満了の30日前までに，同項第２号又は第３号に該当する場合は，速やかにこれを行わなければならない。

第３条　学生部長候補者の選考に際して，富山大学教務委員会及び同補導協議会は，その合同の委員会において，本学の教授のうちから学生部長候補適任者３名を選定し，これを学長に推薦する。

２　前項における富山大学補導協議会の委員は，同協議会規則第３条第１号及び第２号に規定する者とする。

第４条　学長は，前条第１項の規定により推薦された学生部長候補適任者のうちから評議会の議を経て，学生部長候補者を決定する。

第５条　学生部長の任期は，２年とし，再任を妨げない。

附　則

1.　この基準は，昭和58年２月18日から施行する。

2.　この基準の施行日において，現に学生部長である者については，この基準により選考されたものとみなす。ただし，任期については，第５条の規定にかかわらず，昭和58年５月８日までとする。

3.　富山大学学生部長選考基準（昭和28年４月17日制定）は，廃止する。

▶富山大学学生部長選考基準の制定理由

従来の学生部長選考方法を改めることに伴い，現行のものを廃止したため。

諸　会　議

昭和57年度第４回公開講座委員会（２月３日）

（審議事項）

(1)昭和58年度公開講座実施計画について

昭和57年度第17回学寮補導委員会（２月４日）

（報告事項）

(1)１月28日の予備折衝について

（審議事項）

(1)寮生との話し合いについて

昭和57年度第５回入学者選抜方法研究委員会（２月８日）

（審議事項）

(1)昭和60年度学力検査実施教科・科目について

昭和57年度第６回大学院委員会(持ち回り)（２月９日）

（審議事項）

(1)昭和58年度富山大学大学院工学研究科（修士課程）第２次入学試験合格者の判定について

昭和57年度第18回学寮補導委員会（２月10日）

（審議事項）

(1)広報について

(2)寮生との話し合いについて

昭和57年度第６回学園ニュース編集委員会（２月15日）

（審議事項）

(1)第41号学園ニュースの編集について

昭和57年度第19回学寮補導委員会（２月17日）

（審議事項）

(1)学寮の諸問題について

昭和57年度第５回公開講座委員会（２月17日）

（審議事項）

(1)昭和58年度公開講座実施計画について

昭和57年度第７回大学院委員会(持ち回り)（２月17日）

（審議事項）

(1)昭和58年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)第２次入学試験合格者の判定について

昭和57年度第11回評議会（２月18日）

（報告事項）

(1)昭和58年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)及び工学研究科（修士課程）第２次入学試験合格者の判定について

(2)学生の動向について

（審議事項）

(1)富山大学学生部長選考基準(案)について（継続審議事項）

(2)昭和58年度富山大学文学専攻科，教育専攻科，経済学専攻科入学者選抜試験合格者の判定について

(3)　学長選考管理委員会の設置について

昭和57年度第20回学寮補導委員会（２月18日）

（審議事項）

(1)炊事人の国費負担問題について

(2)寮生との話し合いについて

昭和57年度第６回入学者選抜方法研究委員会専門委員会（２月28日）

（審議事項）

(1)入学者選抜方法の改善に伴う昭和56年度以降の調査研究事項について

昭和57年度第８回附属図書館商議会（２月28日）

（審議事項）

(1)図書資料（大型コレクション）について

(2)小委員会（地図情報室）について

学　事

昭和58年度文部省内地研究員の決定

部局	官職	氏名	研究場所	研究題目	研究期間
教育学部	助手	後藤敏伸	筑波大学	立体デザイン及び構成の研究	58.5.2～58.10.31
経済学部	助教授	正亀芳造	神戸大学	ドイツ民主共和国の社会主義企業の労務管理	58.9.1～59. 2.29
〃	〃	中藤康俊	名古屋大学	日本農業の経済地理学的研究	58.5.2～59. 2.29
教養部	教授	桂木健次	九州大学	地域環境政策に関する研究	58.5.2～59. 2.29
〃	助教授	八木保夫	東京大学	アメリカ合衆国憲法における言論・出版の自由	58.9.1～59. 2.29

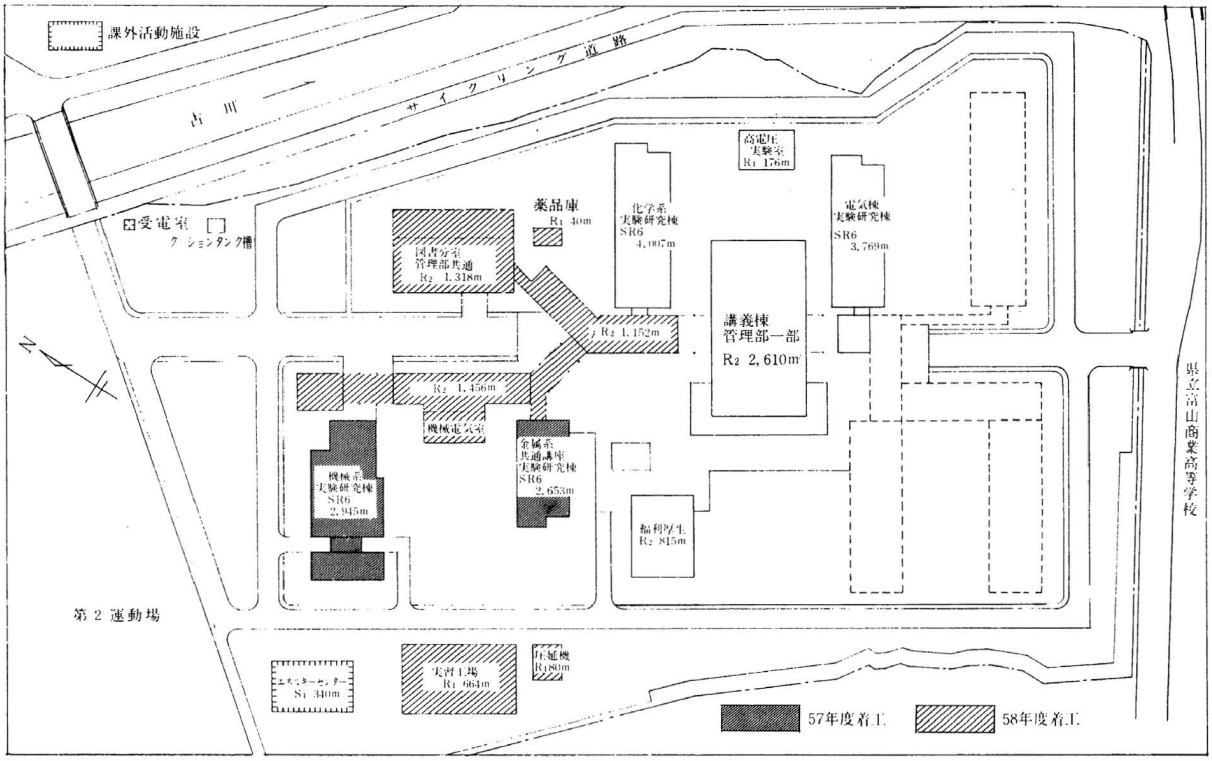
人事異動

異動区分	発令年月日	氏名	異動前の所属官職	異動内容	任命権者
退職	58. 2. 12	中村公弘	技術補佐員(富山大学経理部主計課)	昭和58年2月11日限り退職	富山大学長
	58. 3. 1	鳥山一郎	〃 (〃)	昭和58年2月28日限り退職	〃
	〃	藤田政志	〃 (〃)	〃	〃
	〃	宮嶋恒行	〃 (〃)	〃	〃
	〃	藤木弥三郎	事務補佐員(富山大学附属図書館)	〃	〃
	〃	本田善彦	〃 (〃)	〃	〃

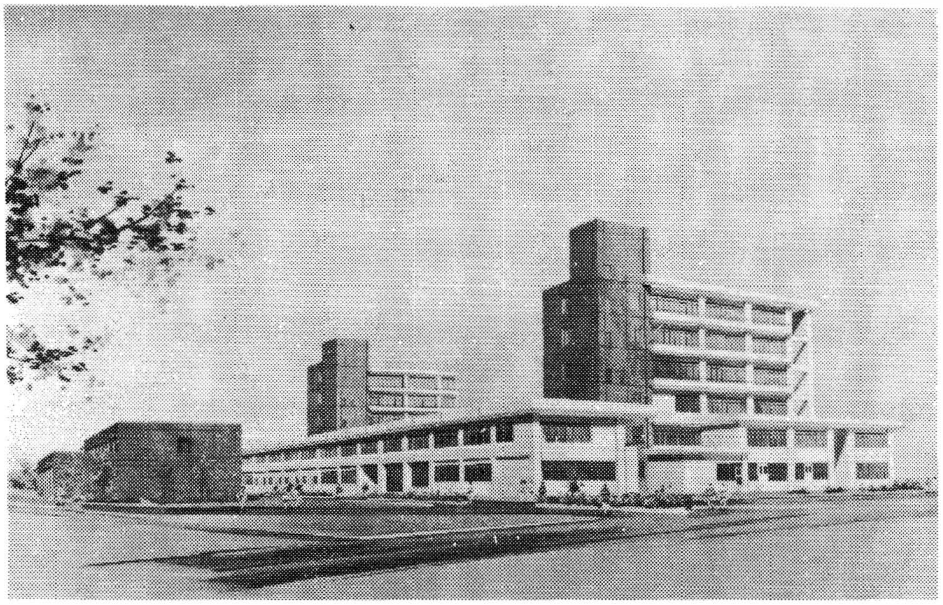
学内諸報

工学部校舎の新営工事について

本学の永年の悲願であった工学部の富山市五福地区への移転統合の決定に伴い，同校舎新営工事がいよいよ着手されるはこびになった。図面に示すように，昭和57年度予算によって機械・金属系実験研究棟の工事に着手し，58年度には更に図書館分室などの工事に入る予定である。そして，59年度には電気・化学系実験研究棟，並びに講義棟などが新築されることになっている。なお，福利厚生施設並びに環境整備はこれらの工事に引き続いて行われる予定である。現在，工学部においてはこのような工事計画に基づき，59年秋ごろ，60年秋ごろにそれぞれ機械・金属系及び電気・化学系の移転準備計画を進めつつある。



（富山大学工学部校舎配置図）



（工学部機械・金属系実験研究棟透視図）

教育学部長の改選

大澤欽治教育学部長の任期が昭和58年３月30日に満了することに伴い，教育学部教授会は２月16日に次期学部長候補者の選挙を行った。その結果，現職の大澤欽治教授が再選された。任期は，昭和58年３月31日から２年間。

理学部長の改選

竹内豊三郎理学部長の任期が昭和58年4月1日に満了することに伴い，理学部教授会は，2月16日に次期学部長候補者の選挙を行った。その結果，中川正之教授が選出された。任期は，昭和58年4月2日から2年間。

中川教授は，昭和19年9月京都帝国大部理学部を卒業，同24年9月同大大学院特別研究生を経て，昭和24年11月旧制富山高等学校講師に奉職して以来，同25年3月富山大学文理学部助教授，同41年4月教授，同52年5月文理学部改組による理学部発足とともに同教授となり，また，昭和53年4月に設置の富山大学大学院理学研究科担当の教授をも兼ねて今日に至っている。

この間，昭和48年6月から5期にわたり富山大学評議員に併任となり，現在に至っている。

専門は，雪氷物理学，理学博士，富山県出身。

工学部長の改選

大井信一工学部長の任期が昭和58年4月1日に満了することに伴い，工学部教授会は，2月23日に次期学部長候補者の選挙を行い，その結果，位崎敏男教授が選出された。任期は，昭和58年4月2日から2年間。

位崎教授は，昭和20年9月京都帝国大学工学部冶金学科を卒業，同21年1月高岡工業専門学校講師，同26年3月富山大学助教授(工学部)，同26年7月13日から同28年7月12日まで附属図書館工学部分館長，同36年4月教授に昇任，同56年6月から評議員に併任となり，今日に至っている。

専門は，非鉄冶金学，工学博士，富山県出身。

トリチウム科学センター長の改選

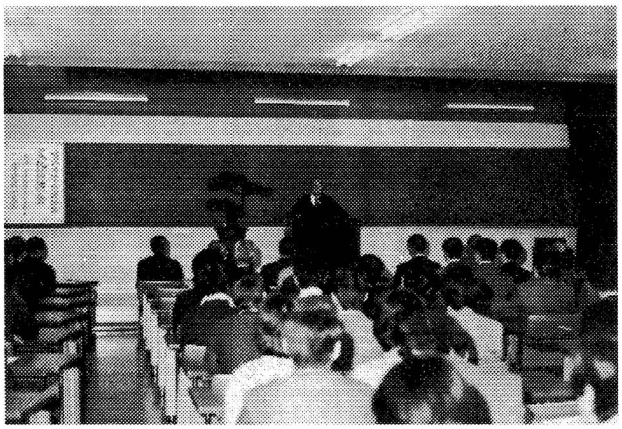
竹内豊三郎トリチウム科学センター長の任期が昭和58年4月1日で満了することに伴い，トリチウム科学センター運営委員会は，2月21日に次期トリチウム科学センター長候補者の選定を行い，その結果，理学部の中川正之教授が選ばれた。任期は，昭和58年4月2日から2年間。

文化講演会の開催

去る2月28日(月)午前10時30分から教養部201番教室において，安達健二東京国立近代美術館長（元文化庁長官）を講師に招き，本学職員を対象として文化講演会が開催されました。

この講演会は，職員の社会的識見を深め，学術文化的視野を涵養し国家公務員としての資質の向上を計ることを目的に，富山大学職員研修の一環として開催されたもので，各部局から約150名の職員が聴講しました。

講演題目の「文化の時代をどう生きるか」についての興味深い内容と講師の熱弁に，聴講者全員が最後まで熱心に聴き入り，12時ごろに終了しました。



第25次南極地域観測隊員候補者の推薦

昭和58年11月に出発予定の第25次南極地域観測隊の隊員候補者として，本学理学部助手川田邦夫氏が推薦されることになりました。

現在，これの訓練として乗鞍岳において冬期総合訓練が行われており，その後，身体検査等の事務手続終了後，本年６月中旬ごろに隊員として正式に決定される予定です。

寄　　稿

〈船尾甲板での回想〉

理学部助手　竹　内　　章

海の色はいままでの藍と違い，今朝は深いオリーヴグリーンに近かった。船尾に舞い立つ潮吹に低い小さな虹ができて，その度に次々と10数羽のケープピジョンがそれを潜る。高く低く，ときには右にときには左に旋回しながら追いかけて来る。1983年１月８日。５週間余りの船旅は，あと丸１日を残すのみとなった。

＊　　＊　　＊　　＊

10,600排水トンのグローマーチャレンジャー号は，全長133ｍ，船体中央に吃水高55ｍのマストならぬボーリング用やぐらが聳える深海掘削船である。　外径12.7cm，27ｍ長のパイプが200本以上積み込まれており，これを次々と繋いで海底に下ろし，さらに深層へ向けて掘削する。このパイプには9.6ｍ長の内管が入っており，この中に堆積物や岩石がとり込まれる。この長さ分ずつ掘り進むたびに内管はワイヤーラインで船上に引き上げられ，径6.4cmの岩芯（コア）が回収されるのである。ボーリングの作業は，ぶ厚い胸板のいかにも逞しい猛者たちによって行られ，コアを半分に開いて観察・記載するのが私たちの仕事であった。

＊　　＊　　＊　　＊

ジングルベルの曲が街に流れ出した11月の末，富山を発った私は，南太平洋の楽園のひとつと言われるニューカレドニア（フランス領）のトントゥータ空港に降り立った。空港からグローマーチャレンジャーの停泊しているヌメアに向かう小型バスの中に，津軽の下北から来たという女性がいた。ただ一人で国外に旅行するのが初めてだった私は，多分心細かったのであろう。どこから何をしにヌメアに来たのかと聞かれるなり，塞いだ気分が一変するのを覚えた。驚いたのは，このひとが女性特有の命令口調でまるでタクシーに乗っている時のように運転手に指図してバスを操ったことであり，しかもそれが英語でなくフランス語で叫んでいたことであった。そればかりではない。初対面の私に対しても出港までに２，３日あるのならと荷物を船に置いてこさせ，あっけにとられたままの私が我に帰ったころには，パーラーに並んで坐ってトロピカルジュースを飲んでいるのであった。このひとは，学生時代に仏文専攻であり，卒業後直ちに日本を飛び出してここに住み着いてしまったらしい。日本へ行ったのは，母親の急病のためとかで，これが初めての帰国だと聞いた。今は漁船関係の会社に勤め，養殖漁業の勉強中だという。ゆくゆくはフランス本国で暮らしたいという。私には，自分の生き方や将来の希望についてこんなにはっきりと語ることのできるひとは滅多にいないと思われ，その感動からくる胸のときめきは久しく忘れていたものであった。このひとの愛苦しい程眩く両の眼は今だに想い出すことができる。

『今日できない事は明日やればいい』万事この調子だと聞かされると，朝から夜半まで研究室にいることの価値は何であろうかと競争社会の宿命に対する疑念が膨張しはじめたのであったが，幸か不幸か，グローマーチャレンジャー号の出港予定に変更があり，私はヌメア到着の日の夕刻，これまでの生き方の延長となる航路にあわただしく出奔した。

＊　　＊　　＊　　＊

グローマーチャレンジャー号の深海掘削は，1968年に始まっている。当初，この研究事業は，JOIDESと略称される米国の有力海洋研究機関が集まった組織による立案に基づき，米国科学財団NSFから資金を得た「深海掘削計画」（DSDP）として実施され，プレー

トテクトニクスの根拠ともなる海洋底拡大説の実証をはじめ深海底堆積物の層序・海洋古環境の解明に多大な直接的貢献をなした。この間にDSDP事業の国際的資金分担（毎年100万ドル）の呼びかけがなされ，1974年にソ連・西ドイツ，1975年に日本・イギリス・フランスが参加し，DSDPは1975年から「国際深海掘削計画」（IPOD）と呼ばれる段階になっている。IPOD事業での研究目標は，DSDPでは重点のおかれていなかった海洋性地殻への深層ボーリングや，大陸縁辺域での掘削，海洋環境史の解明などである。これらが著しい成果を挙げてきたことによって，当初1980年に終了する予定が更に延長され第２次計画IPOD IIとして，1984年９月まで継続される見込みという。ポストIPOD IIは，AODP（Advanced Ocean Drilling Project）として，グローマーチャレンジャー号よりはるかに大きく，高性能の掘削装置や船位安定装置を備えたグローマーエクスプローラー号が建造され，1985年10月から新計画を開始しようという案があるそうだ。しかし，この新計画では各国の分担金は年間300万ドルとされているばかりでなく，ソ連の参加がアフガン問題以来止められたままであることや，日本国内でも「国際リソスフェア探査計画」に対する財源が大きく縮小・規制されていることなど，米国独自の費用では決して賄い切れないことが明らかなこの計画実現には否定的材料もまだ多い。

＊　＊　＊　＊

グローマーチャレンジャー号第90次航海は，ニューカレドニアのヌメア出港からニュージランドのウェリントン入港までタスマン海のロードハウ海嶺上の５地点，南西太平洋のチャッタム海嶺上の１地点を掘削した。船上の生活は予想より快適で，とくに１日４度の食事は十二分に満足のゆくものであった。４度というのは船内にいるすべての者が航海中を通じて昼夜12時間交替となっているからである。異なる環境に身を置いて客観的に自分を見つめ直すなどというつもりは毛頭なかったけれども，船内ではいやおうなく唯一の日本人として扱われ，自分はというと何にでも外国を感じる島国根性や，相手の言い分を理解しようともせぬまま同調し遣り過ごそうとしている自分に気づかされる。人の中にいながらあえて孤独に振る舞ったりするのは私の学生時代から注意され治らずにいた甘さであるが，それが図らずも露呈し，苦笑しながらどうでもそれに立ち向かわねばならない場面も多くあった。

船長はミッドウェー海戦に参加し，戦後日本人を妻に迎えた人で，レーガン米大統領張りの政治・軍事論はいただけないにしても，よく私をつかまえては，昔の日本人のサムライ精神を褒め今の若者の軟弱さを口説いた。戦争のことについて父からはほとんど何も聞かされてこなかった私にとって，今でも太平洋戦争の真只中にいるように語る船長の米国海軍軍人としての誇りは，理解するには遠く及ばず，その異常なほどの執着にほとほと閉口するばかりであった。

＊　＊　＊　＊

プロペラがかき立てる航跡はいつの間にかマリンブルーに変わっていた。もう昼食時の交替もない。若い海洋技師たちと音楽談議をしたり，からかってみたりする余裕がようやく出てきたころなのにである。船尾の星条旗が夏でも寒いというニュージーランドエアーにはためいていた。

（乗船研究者たちから募集されて採用された第90次航海記念のマーク。乗船者たちのＴシャツなどにプリントされる。下方のサインはクラーク船長のもの。）

▶　筆者は，東京大学海洋研究所からの依頼に基づき，国際深海掘削計画によるグローマー・チャレンジャー号第90次航海乗船研究員として，昭和57年12月１日から昭和58年１月16日まで南太平洋の新第三紀古海洋学的研究のため，公海上（南部太平洋域）へ外国出張されましたので，特に寄稿を御依頼したものです。

保健管理センターだより

〈心　の　ト　ラ　ブ　ル　（その３）〉

～～～生活のリズム～～～

保健管理センター講師　高　尾　テルノ

〝現代は非行文化の時代である〟と言われているように，少年の保護領域内暴力，遊び型非行，奇妙な登校拒否，理解しがたい自殺など，最近大きな問題となっている。

〝子供の非行も大人の非行も起こるべくして起っている〟とも言われ，これらの非行の原因について種々考えられるが，ここでは日常の生活リズムといった側面から考えてみたいと思う。

〝生活のリズム〟とは，生活の規則性と周期性であり，個人の成長段階と環境（対自然・対社会）の中で展開されるものであると考える。したがって，子供の生活リズムは大人の生活リズムの反映であり，現代社会を反映したものといえる。

小・中学生の夜ふかしからくる朝食抜き，１限目からの欠伸（あくび），集会時の立ちくらみ，排便なしの体調くずれなど生活のリズムの規則性，生活の習慣や生活のけじめ，あるいはめり，はりといったものがなく，何か生活のリズムの乱れからきているのではなかろうかと考えられる。

世の中のほとんどの現象には周期性があり，一定のリズムで動いている。地球の公転による四季の移り変わりや，自転による昼夜の区別など～～～。これに順応して人間生活が展開されているのである。

人間は，だれでも１日24時間という時間を生きている。もちろん，その職業によって，あるいは年齢によって，24時間の配分の仕方は様々である。しかし，食べることと眠ることといった基本的な営みについてみるなら，人間の生活はそれほど違いはない。そして24時間は，ある種のリズム感を伴っているのが普通である。

１日24時間を大体８時間働き，８時間眠り，あとの８時間が雑事の生活習慣となっている。

原始時代は，１日が大体２等分されていたので，１周期が２拍子で多少幼児的ではあるがリズムがあった。

現在は，睡眠の８時間を除いて，働く８時間と雑事の８時間が複雑に入り組み，１日が３等分でないので３拍子にならず，リズムが整っていない。それが現代社会の特徴であり，調子の外（はず）れた人間が多くなっているのではなかろうか。

人間は元来，単調なリズムの中で生活すべきであったが，雑事の８時間の利用・配分に工夫が足らないため，有効に使うことが出来ず親から与えられた日程に従い（習い事などの塾，家庭教師），また時間をもてあまして悪の誘いにのりやすく非行に走るのではなかろうか。

この雑事の８時間を食事や運動，趣味に有効にリズミカルに利用することによって，健康な心身を維持・増進することができるのではなかろうか。

最近の子供たちの生活リズムについて考えてみると，夜ふかし，遅寝の傾向が著しい。

総理府の調査報告（国際比較）によると，イギリス，フランスの子供に比べて，日本の子供たちの就寝時間は午後10時36分と１時間も遅いのに，朝は逆に20分も早く起床している。日本の子供は他国の子供に比べて，１時間20分も睡眠時間が少ない。このことから，子供たちの睡眠と覚醒という生活のリズムは，就寝時間がどんどん遅くなり，睡眠時間が少なくなる傾向にある。ここで学校生活という歯止めがなくなったら，子供たちの生活は同じ24時間周期でも〝宵っ張りの朝寝坊〟型に移行していき，レジャー熱に浮かされた日本の青年は，生活の必要からではなく遊びの精神からゴキブリ族が増え，昼夜の生活リズムを乱していくのである。

このような夜ふかしや遅寝のもたらすものとして

1）自律起床をしなくなる。
2）朝食を摂取しなくなる
3）排便などの規則性が損なわれる
4）母親や周囲の人に心理的に依存するようになる
5）集中力を欠き，無気力な状態を維持していく
6）情操は安定感を失い，協調心に欠ける

などが考えられ，自分で自分の生活リズムをコントロールできなくなり，受動的な生活習慣が身についてしまうのである。

また，塾通いがいかに生活リズムに影響を及ぼすかを考えてみると，朝慌てて学校に行き，学校で知識を詰め込まれ，遊ぶ時間もなく塾へ行き，夕食後宿題をしながらテレビを見ているともう就寝時間といった1日である。

塾通いが増えた分自宅学習時間が減っているのではなく，それだけ遊びの時間や睡眠時間が減り，その分友人との接触の時間，家族との交流時間は削られているのである。

現代は，語らいの喪失の時代といわれているが，子供らの遊びの時間，家族との語らいの時間がなくなったことも要因の一つであろう。このように，塾通いの増加は，子供の生活リズム全体に対して大きな影響を与えている。

紙面の都合上，子供らの睡眠時間(夜ふかし，遅寝)と塾通いについてその一部分を述べただけであるが，その他，テレビ視聴時間や読書時間，遊びの時間などを考え合わせてみると，現在の子供らは

1) 自分のリズムに合わせないで，周囲の環境ばかりに合わせている。
2) 他人の作ったリズムにのっかった生活の中で成長してきた子供には，〝考える力〟や〝工夫〟ましてや〝計画〟を立てることが出来ない。
3) 〝ゆとり〟がない，きちんとした生活リズムがないため逆に〝ゆとり〟がないのかも知れない。
4) 子供らが夜型になるのは，逆にいえば，教師や親からの圧力を受けない自分の時間を求めての姿ではなかろうか。
5) 親との本当の意味での対決，ぶつかりあいがない。
6) 親との人間関係や家族の中での生活そのものの実感的なものを理解あるいは経験していないのではなかろうか。
7) 子供らにはもっと活き活きとした本来のリズムがあるはずである。

われわれ親や大人は

1) 子供たちの日常生活をどう建て直すか，いわば，生活リズムの確立という観点から考えていかなければならない。
2) 親子のコミュニケーション ～ 食事や会話という何気ない日常の営みが，子供の成長にとっていかに大切であるかを再認識すべきである。
3) 子供の生活リズムの乱れは，母親が子供を育てていくうえでの生活リズムの乱れと関係しているのではなかろうか。
4) 子供らの出している症状いわゆるメッセージから，われわれは何を学ぶべきか，何が彼らに大切なのかを正確に読みとる眼を持たなければならない。
5) 子供をいかに自立させるか，自立の意志をもたせるかが大切である。

〝もやしっ子〟から〝肥満児〟さらに〝骨のもろい子〟へ，また，〝現代っ子〟から〝異邦人〟〝いじめっ子〟へと子供たちが大きく変えられていく中で，子供らが挙げている悲鳴(暴力，非行，暴走など)は，親に対して，社会に対して再点検，解決を迫っている声でもある。

われわれ親や大人は，基本的なリズム，基本的な人間関係のもち方，生活のあり方といったものを強調し，重視しなければならない。

自然に帰れ！　自然の姿に帰れ！

われわれ人間と自然との結びつきが，情緒を育て，生活リズムの基礎になるのではなかろうか。

▶ 昭和57年5月1日発行第222号から「保健管理センターだより」を掲載してきましたが，本年度1年間御愛読いただきありがとうございました。

なお，多数の方々から好評がありましたので，再度保健管理センターの諸先生方に執筆願い，引き続き，58年度も掲載する予定です。御期待ください。

職員サークルの紹介

○山　岳　班

ここ5～6年の山岳班の企画活動は極めて低調なものでありますが，各職場の都合で日程の調整をしながら気の合った者同志がグループを作り，テントを背負いキャンプを楽しむ人，山小屋を宿り歩き縦走される人，また，春には山菜取り，秋にはきのこ狩り等みんな楽しく行っています。

山岳班の名称から山岳部的なイメージが強く感じられる人が多いかと思いますが，山岳部とは一定の目的たるピークに向かって真に苦労をなめて前進し，その苦労の中に喜びや楽しみを見いだすものであろうかと思われます。

それに比べて我が山岳班は，やはり一定の目的に向かって進むには違いありませんが，それが必ずしもピークでなくて良い，苦楽は別として真に自然に接し，また，その中に溶け込むことに根本命題があると思います。すなわち，固く身構えたものでなく，楽しくやっていけば良いのではないでしょうか。

山岳班は山岳部ではなく，富山という地域柄，山や海の大自然を親しみ歩き，登山やキャンピングの好きな者の集まりであります。

今後，北アルプスのような高い山ばかりでなく，県内の低い山を一つ一つ登ることも企画していますので，山岳班以外の方々の参加をも期待しております。

また，登山，キャンプを楽しまれる人には次の用具を用意してありますので，どうぞ御利用ください。

「リュックサック，テント，寝袋，ガスバーナー，ガソリンバーナー，食器，鍋，コッフェル等炊事用具，その他。」

●連絡先　教養部　中林 邦夫（内線573）
経理部　桶　喜一（内線249）

○庭　球　班

ここ数年，我が庭球班の活動は低調そのものですが，これに反し現在は，テニスブームと言われるようにテニス愛好者が増え，巷では老若男女を問わずテニスラケットを持つ姿をよく見かけるようになりました。

本学でも職員の皆さんが，昼休み時間にコートで白球を追い，汗を流しておられる姿を昨年来からよく見かけるようになりました。

毎日仕事や家事などに追われ，テニスをする暇などとても無いと考えている皆さん，昼休み時間，土曜日の午後など軽くラケットを握られてはいかがですか。

服を着替え，ズックに履き替えてまでは……と考えておられる方は，上着だけを脱ぎ，軽くラケットで素振りだけでも……というように，割と手軽に出来るスポーツであり，かつ屋外スポーツですから美容と健康の維持には最適です。

班としても，今年は何としても練習会，練習試合などを開き，より多くの職員の方々にテニスになじんでいただこうと考えておりますので，多数の方々が参加されるようお待ちしております。

なお，班には多少のテニス用具がありますので，貸し出しを希望される方は御連絡ください。

●連絡先　経理部　牧野 秀應（内線231）

○釣　班

釣班では，従来から海釣りのみを行ってきており，数年前までは年中行事として年1回船を借り上げ全学の希望者が参加して「キス釣り大会」を実施してきましたが，最近の釣りブームで船の借り上げ料が高くなったこと，及び参加者の減少などにより昨今では年に1回希望者が参加して富山新港岸壁での「五目釣り大会」を行っているのが現状です。ここで，今までに行われた大会の結果について振り返ってみますと，船による釣りでは船頭の腕によりこれが非常に大きく釣果に影響し，仕掛やハリスの太さ，道糸の太さ等の選択による個人差はあまりなく，船頭の指示に従ってまじめに釣りさえすればまずは坊主ということはないようでした。

これに比べ，岸壁からの釣りでは，針の大きさ，ハリスの太さ，オモリの大きさ，棚の取り方，道糸の太さなど，また，投げ釣りでは針の数，使用するエサの種類，エサのつけ方，その日の潮等々が微妙に関係し合ってこれらが釣果に大きく影響したと思われます。

しかし，両方の釣りで共通していたことは，常に新鮮なエサを回数多く付け替えることである程度の差が出ることは確かなようです。今後とも年に最低1回ぐらいはクラブ員全員並びに全学の希望者に参加していただき，楽しい時間を過ごす機会を持ちたいと思っておりますので，積極的に本大会に参加していただくようお待ちしております。

●連絡先　施設課　福山　浩（内線240）

▶　本学レクリエーション委員会の専門部会に所属する各班の活動状況等を，昭和57年9月1日発行第226号から7回に分けて「職員サークルの紹介」として掲載してきましたが，すべての班の紹介を終りましたので，今号で終了させていただきます。

各班の執筆者の方々には，公務御多忙のところ心良く原稿を提出くだされここに厚くお礼申し上げます。

各班は，新規加入者を待っております。皆さんの積極的な御支援により，加入者が少しでも増えますことを願うとともに，班の活動が従来よりも一層活発になり発展しますことを祈念しております。

職員消息

《住所変更》

人文学部

助教授　鈴木敏昭

〃　松島英子

理学部

助教授　金坂　績

主要行事

本部

2月

1～8日　昭和57年度会計事務内部監査

3日　第4回公開講座委員会

第6回富山大学短期高等教育機関(高岡)創設準備委員会専門委員会

4日　庶務係長会議

第17回学寮補導委員会

8日　第5回入学者選抜方法研究委員会

9～15日　入学願書受付

10日　第18回学寮補導委員会

14日　短期高等教育機関(高岡市)に関する創設準備会議(第2回)

17日　第5回公開講座委員会

部課長会議

18日　第11回評議会

第1回学長選考管理委員会

第19回学寮補導委員会

18～19日　臨時東海・北陸地区国立大学事務局長会議(於富山医科薬科大学)

25日　自動車運転手・タイピスト特別定期健康診断

28日　講演会(職員研修)

28日　第6回入学者選抜方法研究委員会専門委員会

文理学部

2月19日　後学期授業終了

人文学部

2月2日　学部教務委員会

教授会検討委員会

会計事務内部監査

8日　文学専攻科入学者選抜試験

9日　教授会

人事教授会

16日　教授会

学部図書委員会

19日　文学専攻科合格者発表

後学期授業終了

21日　服務関係事務調査

23日　教授会

人事教授会

24日　入学者選抜試験調査書審査

教育学部

2月3日　日本教育大学協会第二部会理事会(於東京学芸大学)

4日　会計事務内部監査

日本教育大学協会地区会長会・理事会(於東京学芸大学)

附属小学校入学者第1次選考(発育検査)

5日　教育専攻科入学者選抜試験

6日　附属中学校入学者第1次選考（学力検査）
9日　補導委員会
　学部教務委員会・補導委員会合同会議
　学部教務委員会
　教授会
　附属小学校入学者第2次選考（抽選）
10日　附属中学校入学者第2次選考（抽選）
12日　後学期授業終了
14日　教育実践研究指導センター運営委員会
16日　学部長候補者選挙
19日　教育専攻科合格者発表
21～23日　教員養成学部学生合宿研修(冬季)（於県営ゴンドラスキー場）
22日　服務関係事務調査
23～24日　国立大学教育工学センター協議会及び研究会（於東京学芸大学）

経済学部

2月2日　教授会
3日　学内会計監査
5日　学部図書委員会
10日　昭和58年度富山大学経済学専攻科入学試験選考委員会
12日　後学期授業終了
16日　学部教務委員会（持ち回り）
　人事教授会
　教授会
23日　人事教授会
　教授会
24日　学内服務関係事務調査

理学部

2月2日　会計事務内部監査
4日　大学院理学研究科第2次募集調査書審査
8日　大学院理学研究科第2次入学者選抜試験
9日　学科主任会議
10日　竹内教授退官記念講演（理学部2号館・10番教室）
14日　学部教務委員会
16日　教授会
　理学部長候補者選挙
　理学研究科委員会
19日　後学期授業終了
　大学院理学研究科第2次合格者発表
21日　服務関係事務調査
23日　教授会
　人事教授会
24日　入学者選抜・調査書審査

工学部

2月1日　肝臓機能検査
1～2日　昭和58年度大学院工学研究科(第2次)入学試験
2日　入学試験検討委員会
3日　学部補導委員会
4日　学科主任会議
7日　会計事務内部監査
9日　工学研究科委員会
　教官選考委員会
10日　大学院工学研究科(第2次)入学試験合格者発表
15日　係長連絡会
　講演会
　演題「微細加工についての現場からの報告」
　講師「㈱不二越 取締役技術部長 新居信義氏」
16日　教授会
　専任教授会
　工学研究科委員会
19日　後学期授業終了
23日　教授会
　学部長候補者選挙
　学部教務委員会
25日　服務関係事務調査
28日　学部構内交通対策委員会

教養部

2月1日　会計内部監査
2日　教養部教務委員会
2日　人事教授会
　教授会
18日　服務関係事務調査

附属図書館

2月3日　会計事務内部監査
　国立大学図書館協議会常務理事会（於東大総合図書館）

４日　国立国会図書館と大学図書館長との懇談会（於国立国会図書館）
16日　図書館業務電算化研究会
21日　小委員会(地図情報室)打ち合わせ
23日　図書館業務電算化研究会
28日　商議会

トリチウム科学センター

２月18日　トリチウム科学センター運営委員会専門委員会
21日　トリチウム科学センター運営委員会

保健管理センター

２月９日　臨時健康診断（スキー実習参加者）

経営短期大学部

２月３日　会計事務内部監査
９日　昭和57年度第２回国立短期大学協会第２部会（於東京農林年金会館）
９～15日　推薦入学願書受付
10日　第17回教授会（持ち回り）
16日　第５回入学者選抜学力試験委員会
17日　第18回教授会
20日　推薦入学者選抜試験
第６回入学者選抜学力試験委員会
24日　第４回財務委員会
第19回教授会

資　　料

昭和58年度入学志願者数調

学部	学科・課程	昭和58年度 募集人員	昭和58年度 志願者数	昭和58年度 倍率	昭和57年度 募集人員	昭和57年度 志願者数	昭和57年度 倍率
人文学部	人文学科	90	273	3.0	90	393	4.4
	語学文学科	80	213	2.7	80	275	3.4
	小計	170	486	2.9	170	668	3.9
教育学部	小学校教員養成課程	140	210	1.5	140	239	1.7
	中学校教員養成課程	50	148	3.0	50	131	2.6
	養護学校教員養成課程	20	50	2.5	20	72	3.6
	幼稚園教員養成課程	30	113	3.8	30	138	4.6
	小計	240	521	2.2	240	580	2.4
経済学部	経済学科	120	469	3.9	120	202	1.7
	経営学科	120	732	6.1	120	337	2.8
	経営法学科	60	432	7.2	60	182	3.0
	小計	300	1,633	5.4	300	721	2.4
理学部	数学科	40	74	1.9	40	80	2.0
	物理学科	40	53	1.3	40	60	1.5
	化学科	40	60	1.5	40	94	2.4
	生物学科	30	68	2.3	30	80	2.7
	地球科学科	30	89	3.0	30	60	2.0
	小計	180	344	1.9	180	374	2.1
工学部	電気工学科	50	102	2.0	50	102	2.0
	工業化学科	45	118	2.6	45	170	3.8
	金属工学科	40	127	3.2	40	138	3.5
	機械工学科	50	174	3.5	50	159	3.2
	生産機械工学科	40	125	3.1	40	93	2.3
	化学工学科	40	152	3.8	40	104	2.6
	電子工学科	40	71	1.8	40	78	2.0
	小計	305	869	2.8	305	844	2.8
合計		1,195	3,853	3.2	1,195	3,187	2.7

編集　富山大学庶務部庶務課
富山市五福３１９０
印刷所　あけぼの企画
富山市曙町８－４
電話(33)３３５６(代)